

銘柄分析レポート：クローニングのすすめ

1 はじめに

『一流投資家が人生で一番大切にしていること』の第一章「ウォーレン・バフェットの模倣者」から引用します。

それよりもパブライは、業界で最も腕の立つ人物を見つけ、なぜ成功しているのかを分析し、その手法を徹底して真似る。パブライはこれを「クローニング」と呼ぶ。

「モデル化」「物真似」「複製」と言いかえることもできるだろう。呼び方はなんでもいい。立派だとか高商だとか称されることよりも勝ちにこだわる者が使う技なのだ。

現に米国においてはモニッシュ・パブライをはじめとして、ウォーレン・バフェットの手法を模倣する、クローニングにより富を築いたバリュー投資家が少なくありません。

私たち個人投資家もクローニングを大いに取り入れたいものです。

クローニングのポイントは「誰を模倣するか」です。我が国において、ウォーレン・バフェットに相当する、業界で最も腕の立つ人物を見つける必要があります。

果たして、それはいったい誰でしょうか？ 現時点における私なりの答えは光通信（の投資チーム）です。

このような理由で、今年のバリュー投資塾や銘柄分析レポートでは、光通信の投資銘柄を重点的に取り上げています。

なぜならクローニングのもうひとつのポイントは「執拗さ」だからです。

『一流投資家が人生で一番大切にしていること』の著者である金融ジャーナリストのウィリアム・グリーンは本書で次のように述べています。

パブライほど執拗にクローニングする者を私はほかに知らない。模倣の技をここまで極めると、逆説的だが、不思議にも独創的にさえ見えてくる。

モニッシュ・パブライにならって、私自身もとにかく光通信を執拗にクローニングすることになっています。前置きはこの辺にして、次ページから本題に入りましょう。